電力総連

組合員アンコンシャス・バイアス意識調査

調査の実施概要

１．調査の経緯と目的

年齢や性別等にとらわれずいきいきと働ける職場環境の醸成、男女が共に主体的に参画する魅力ある労働組合を構築するため、アンケートを通じて組合員一人ひとりのアンコンシャス・バイアスについて気づきの機会を提供し、理解を促すことでその解消を図ること、また、今後の「多様性」にかかわる取り組みに役立てることを目的に実施した。

２．調査の実施時期

2023年４月～６月

３．調査の方法と対象

各構成総連に調査ページのＵＲＬとＱＲコードを配布し、Ｗｅｂ調査により実施した。

４．回答状況

有効回答数は27,935件（男性：22,817件、女性：4,378件）である。

５．その他

本調査の設問項目は、世間一般の意識との比較を念頭に、内閣府が実施した「令和４年度　性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査」の調査項目に沿って作成した。これらに加え、電力総連独自の設問項目も追加している。

目　次

調査結果から明らかになったこと
調査の実施概要
回答者の構成
第１章　電力総連組合員のアンコンシャス・バイアス
第２章　家族構成別にみた特徴
第３章　組合役員のアンコンシャス・バイアス
第４章　構成組織別にみたのアンコンシャス・バイアス
第５章　男女平等（ジェンダー平等）についての意見

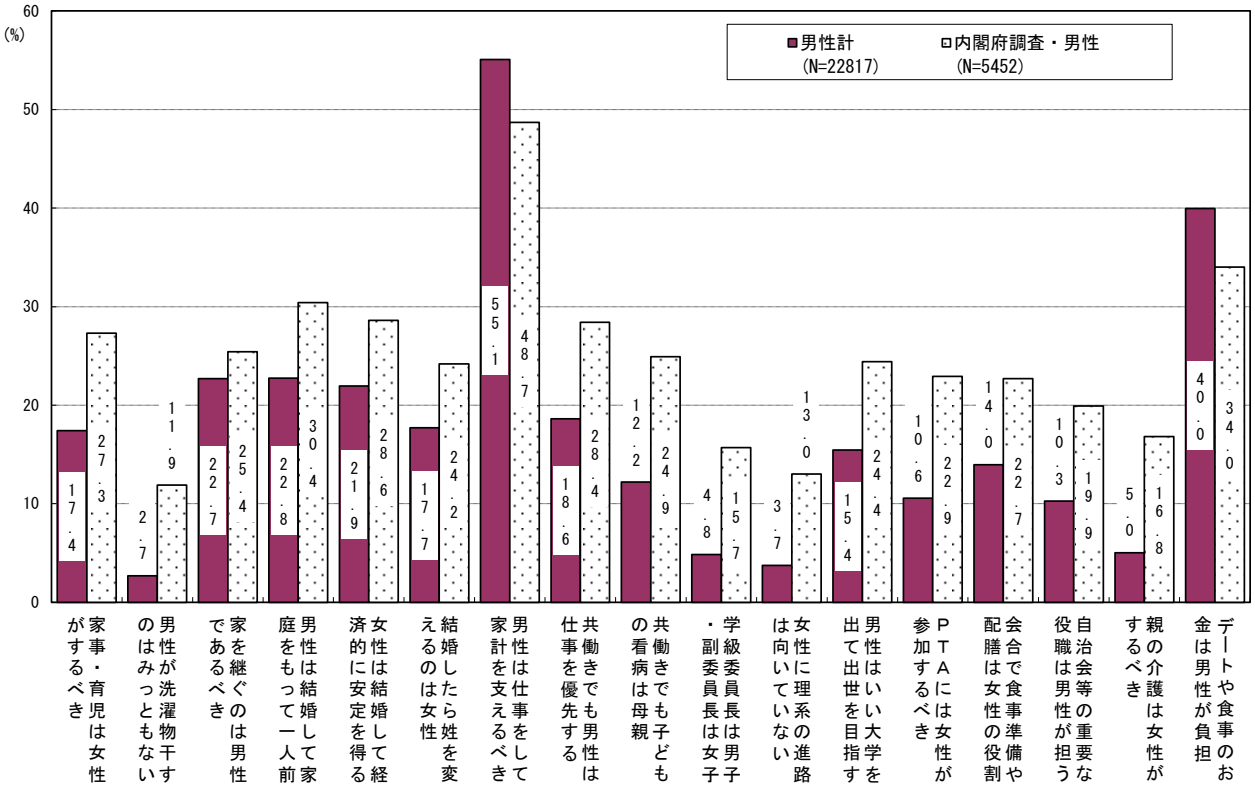
調査結果の概要　（抜粋）

１．家庭・コミュニティ領域

（１）内閣府調査との比較（男性）

内閣府調査に比べて＜そう思う＞比率が低い項目が多いが、「男性は仕事をして家計を支えるべき」、「デートや食事のお金は男性が負担」では電力総連が内閣府調査を上回る（**第１図**）。

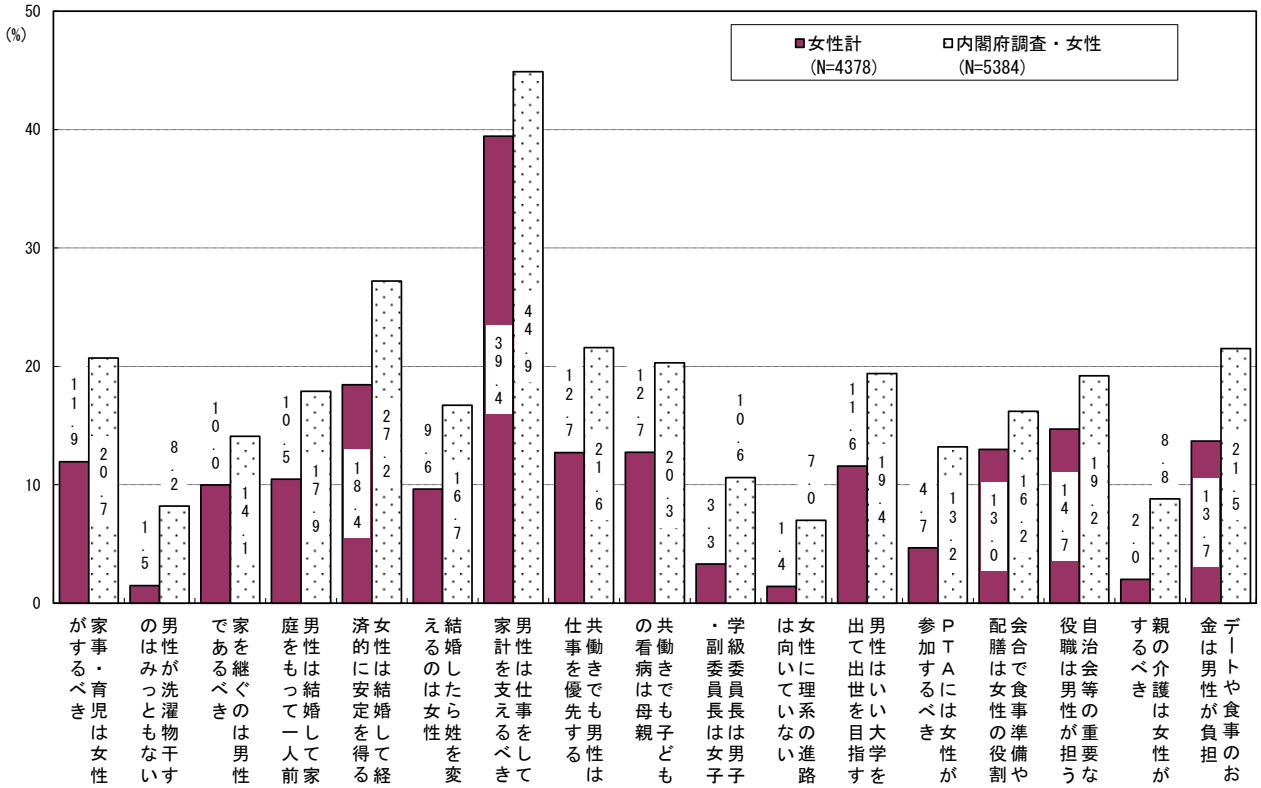
第１図　家庭・コミュニティ領域における性別役割意識＜そう思う＞比率



（２）内閣府調査との比較（女性）

女性の＜そう思う＞比率は、いずれも内閣府調査を下回っている（**第２図**）。

第２図　家庭・コミュニティ領域における性別役割意識＜そう思う＞比率

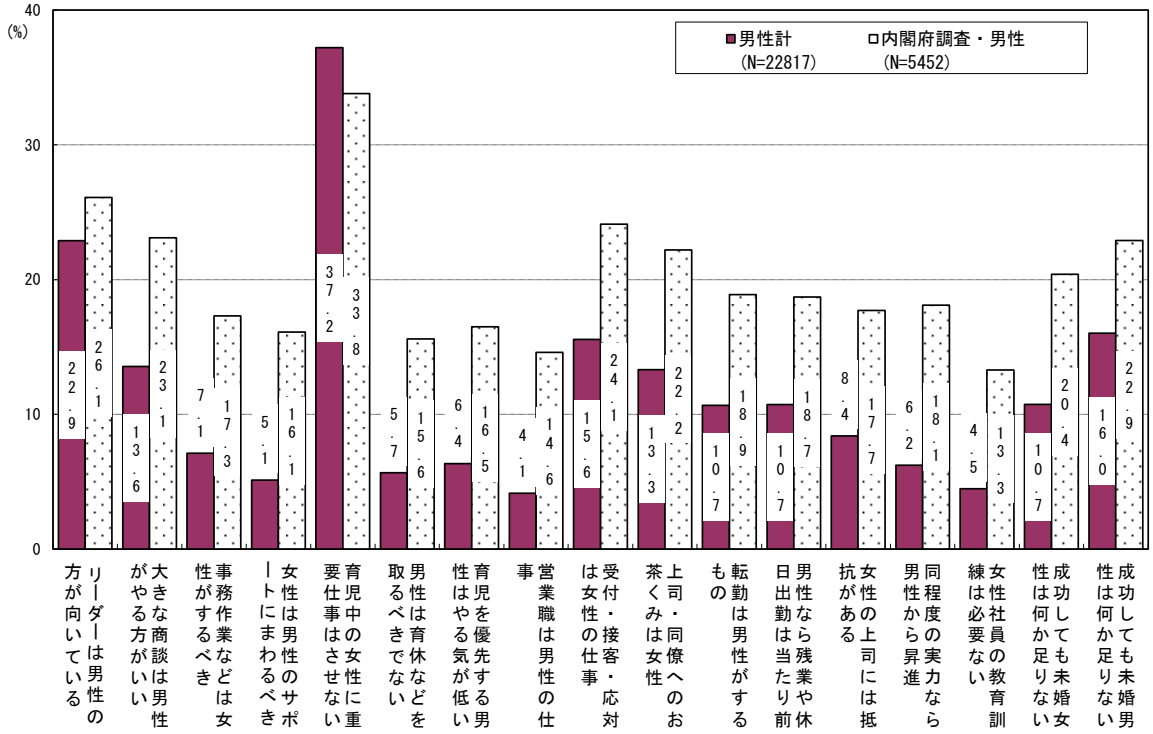


２．職場領域

（１）内閣府調査との比較（男性）

男性の場合、「育児中の女性に重要な仕事はさせない」で内閣府調査をやや上回っている。また、「リーダーは男性の方が向いている」も内閣府調査とほぼ同程度の比率である（**第３図**）。それ以外の項目については、電力総連が内閣府調査を大きく下回っている。

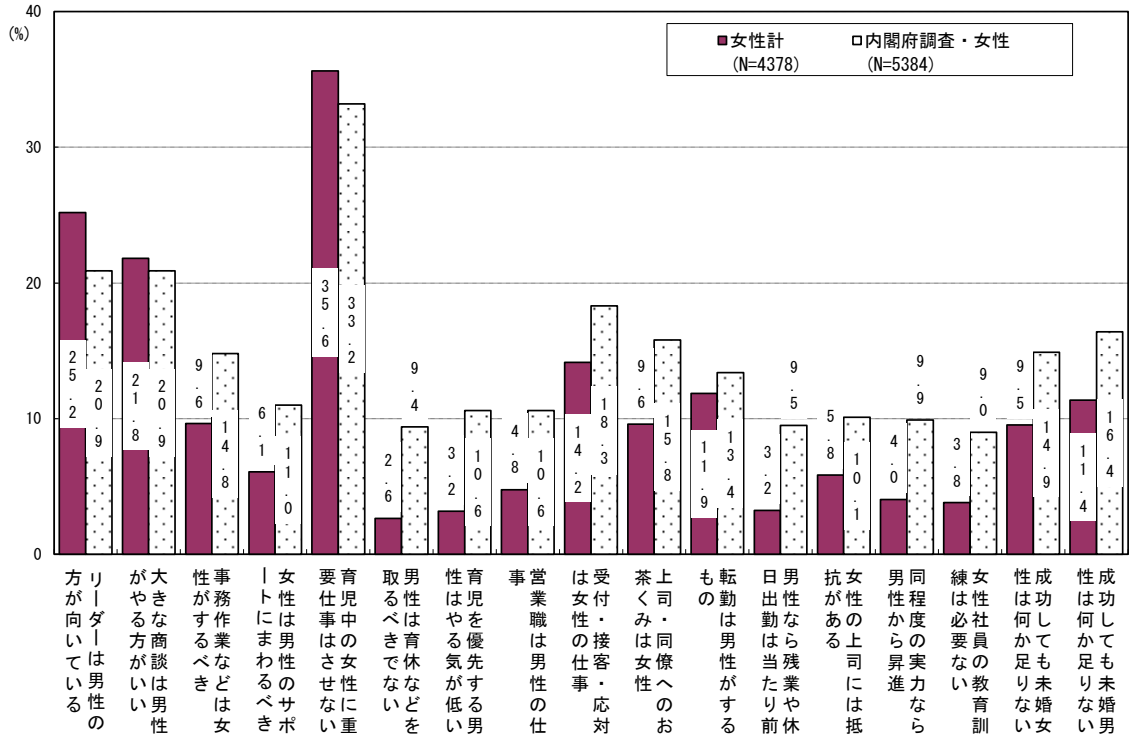
第３図　職場領域における性別役割意識＜そう思う＞比率



（２）内閣府調査との比較（女性）

女性の上位に挙げられている「育児中の女性に重要な仕事はさせない」、「リーダーは男性の方が向いている」、「大きな商談は男性がやる方がいい」は内閣府調査と同程度の比率だが、それ以外は電力総連が内閣府調査を下回る（第４図）。

第４図　職場領域における性別役割意識＜そう思う＞比率

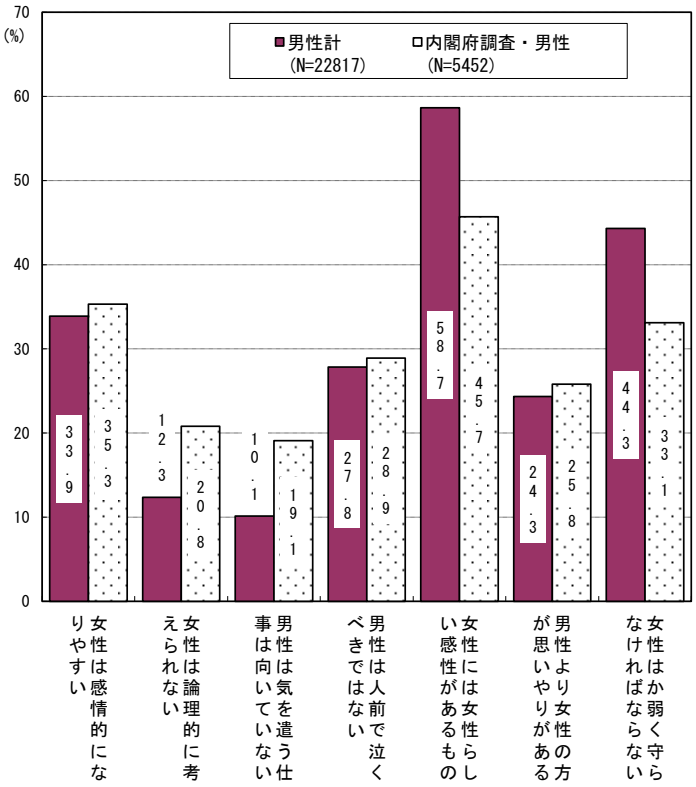


３．その他

（１）内閣府調査との比較（男性）

男性の場合、「女性には女性らしい感性があるもの」と「女性はか弱く守らなければならない」で電力総連が内閣府調査を10ポイント以上上回るが、「女性は論理的に考えられない」と「男性は気を遣う仕事には向いていない」は電力総連の方が＜そう思う＞比率が低い（**第５図**）。

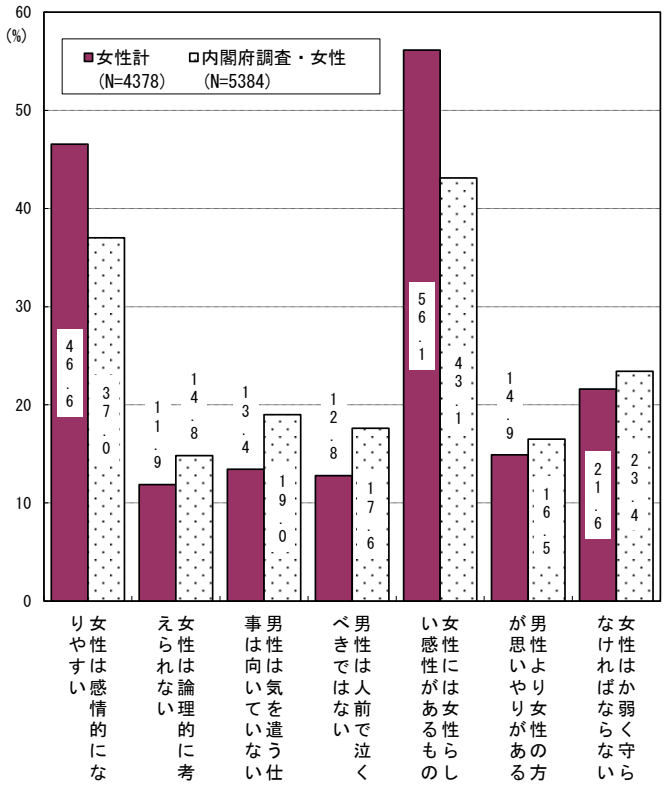
第５図　その他における性別役割意識＜そう思う＞比率



（２）内閣府調査との比較（女性）

女性についても電力総連は「女性には女性らしい感性があるもの」で＜そう思う＞比率が高くなっている。また、「女性は感情的になりやすい」でも内閣府調査を10ポイント近く上回っている（**第６図**）。

第６図　その他における性別役割意識＜そう思う＞比率



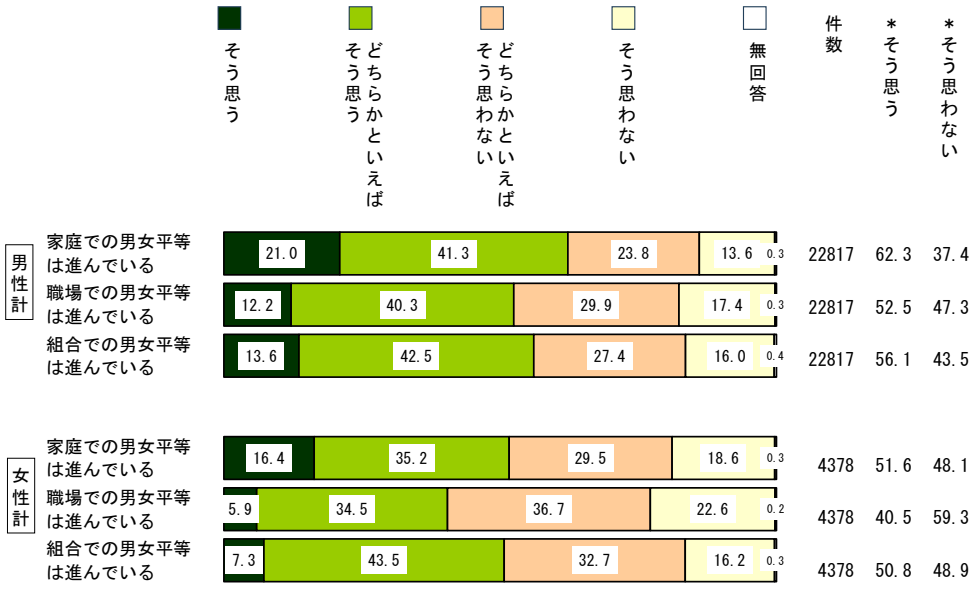
４．男女平等（ジェンダー平等）の進捗状況

「家庭での男女平等（ジェンダー平等）は進んでいる」について、＜そう思う＞割合は、男性が62.3％であるのに対し、女性は51.6％と10ポイントの差がある（**第７図**）。

「職場での男女平等（ジェンダー平等）は進んでいる」については、男女ともに「家庭」に比べて＜そう思う＞が少なく、男性52.5％、女性40.5％と男女で12ポイントの差がみられる。

「組合での男女平等（ジェンダー平等）は進んでいる」については、＜そう思う＞が男性56.1％、女性50.8％と、男性が女性を上回るものの、男女の差は「家庭」や「職場」に比べて小さい。

第７図　男女平等（ジェンダー平等）の進捗状況



調査実施組合より

「組合員アンコンシャス・バイアス意識調査」を実施して

電力総連　組織局　部長　津山（つやま）　誉輝（もとき）
部長　白鳥（しらとり）　優一（ゆういち）

１．調査の目的と実施要項

電力総連は、運動方針に男女平等参画社会実現等への取り組みを掲げ、「労働組合における男女平等参画」と「職場・社会における“人権が尊重される社会の実現”」を運動の両輪とし、各級機関が鋭意取り組みを進めています。電力総連の組織人員構成は、198,142人のうち女性組合員比率が13.9％と女性が少ない産業です。（2023年８月末現在）

電力総連の基本文書「私たちの進路」には、結成時から「男女平等」が掲げられ、労働運動をはじめあらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をめざすため、連合のジェンダー平等推進計画も踏まえ、実施状況を振り返り推進計画を改定してきました。

推進計画の中では、固定性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家庭）の解消、固定観念を打破するとともに、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）による悪影響が生じないよう、取り組むことを掲げています。構成組織の多くが組合員意識調査の実施までに至っていないことから、産別として実施することを決定しました。

実施にあたり参考にしたのが、内閣府のアンコンシャス・バイアス意識調査です。内閣府調査結果との比較分析から電力総連組合員の意識やその課題を浮き彫りにすることが可能と推測したからです。

組合員意識調査ということもあり、自由記述欄および組合独自の項目についても設定をしました。一人ひとりが自分の無意識の思い込みや偏見があるかどうかに、まずは“気づく”という機会の大切さを広めたい、そして、課題を浮き彫りにしたいと考えたからです。

２．調査の結果

多くの気づきを得ましたが、ここでは文面上、一部を紹介させていただきます。

〇職場領域の性別役割分業意識

・内閣府調査との比較では、「育児中の女性に重要な仕事はさせない」と考える割合が男女ともにわずかに多い。なかでも、24歳以下の女性で多い点には、注視する必要がある。

・組合役員経験のある女性では「会社の制度は男性の方が優遇される」が際立って多く、男性組合役員を大きく上回っている。

〇その他の性別役割分業意識

・労働組合に関する意識について、女性の組合活動への参画は男女で目立った差はないが、「組合役員は男性がやるべき」という割合は、30代後半以上の女性で相対的に比率が高い。

・組合役員（現職）でみても、「組合役員は男性がやるべき」は女性が男性を９ポイント上回る。

また、組合独自の項目では「電力総連における男女平等参画は進んでいるか」という直球の質問を準備しました。その結果については、次の通りです。

・男性は、「家庭、職場、組合」いずれの領域も、半数以上が「男女平等が進んでいる」と認識しているが、女性の６割は“職場”において「男女平等が進んでいる」とは思っていない。

・“家庭”と“職場”では、「男女平等が進んでいる」と感じている割合は、男性が女性を10ポイント以上上回っており、男女で認識に相違がある。

・組合員の“組合”の「男女平等が進んでいる」割合は、男性が女性を７ポイント上回る。

３．活用方法

構成総連毎のデータを配布することにより各級機関における調査のフィードバックやデータ分析が可能となりました。現在は、調査を担っていただいた労働調査協議会による学習会が各構成組織で行われはじめ、調査結果が各級機関役員へ周知されております。

アンコンシャス・バイアスに対処するステップとしては、「知る」→「気づく」→「対処する」の３つを基本ステップと捉えています。個人のみならず組織として「知る」「気づく」のマインドセットを浸透させることが不可欠と捉え、機関誌などを活用した広報活動の展開と学習会の斡旋や支援ツールなどによる教育活動の展開を検討しています。

４．調査結果を通してみた今後の取り組み課題

各級機関の役員が調査結果および自由記述欄に書かれた内容を読み込み「なぜそのような回答となったのか？」ということを真摯に受け止めることが、「対処する」のステップに進むうえで重要だと認識しております。各級機関において、学習会の開催や、職場で調査結果および自由記述欄をもとにした対話活動を促していきたいと考えております。

また、職場におけるアンコンシャス・バイアスについては、労使がともに取り組まなければ解消されず、固定的性別役割意識の払拭にはつながりません。会社を巻き込んで取り組みを展開していかなければ、一過性の活動になってしまいます。

社会全体への波及については、私たちの産業だけでなりえるものではないため、このような取り組みやアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）等に関する課題提起が、あらゆる機会を通じて行われることを期待しています。